

第67回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2010年4月21日(水) 15:00~17:00

2 場 所 関西大学会館 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答(15:00~16:00)

- ・ やまぐち まこと 山口 誠 社会学部准教授

発表テーマ「若者の海外旅行離れ」という問題

～『「地球の歩き方」の歩き方』(新潮社)と

『海外旅行の社会学(仮題)』(ちくま新書)を著して～

(2) 学内状況説明・情報交換(16:00~17:00)

- ① 高槻ミューズキャンパス開校記念式典およびオープンキャンパスの開催について 資料1
- ② 関西大学カイザース バンクーバーオリンピック応援感謝日の開催について 資料2
- ③ 平成21年度学生生活実態調査報告書の発行について 資料3
- ④ 商学部ビジネスリーダー特別プログラムの実施について 資料4
- ⑤ 堺シティマラソンへの特別協賛について 資料5
- ⑥ (財)日本スケート連盟による感謝状贈呈式への本学の参加について 資料なし
- ⑦ 教育後援会総会の開催について 資料6
- ⑧ 関大生の活躍について 資料7

4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、林宏昭学長補佐、
山口誠社会学部准教授、川上智子商学部教授、
横山博行広報室長、中川雄弘広報課長、竹中敏治学長課長 他

5 参考資料

- (1) 学校法人関西大学総合案内2010
- (2) 関西大学通信 第375号、第376号、第377号
- (3) 環境報告書データブック2009
- (4) 第36回飛鳥史学文学講座ーやまと・あすか・まほろば塾ーパンフレット
- (5) 図書館特別展「資料に描かれた象」パンフレット
- (6) 博物館企画展「はくぶつかんの海外資料」パンフレット
- (7) 年史資料展示室企画展「関大ルネッサンス」チラシ
- (8) 行事予定表(4月~7月)

以 上

「若者の海外旅行離れ」という問題

『「地球の歩き方」の歩き方』（新潮社）と
『海外旅行の社会学（仮題）』（ちくま新書）を著して

社会学部准教授 山口誠

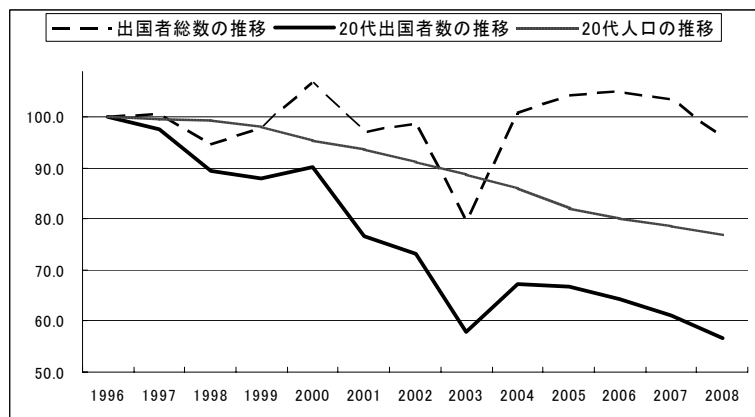
【概要】

「最近の若者は海外旅行に行かなくなった」という報道が、新聞やテレビで繰り返されるようになって久しい。これは事実だろうか。

法務省の統計によれば、二〇代の海外渡航者が最多を記録したのは一九九六年であり、この年には約四六三万人の二〇代が、日本から海外へ飛び立った。それが一三年後の二〇〇八年には約二六二万人になり、実に四三・四%も減少している。なかでも二〇代前半の女性の減少率は約五割であり、およそ半減したことになる。

ただしこの間にも少子化が進行しているため、実数を比較しても無意味だろう。

そこでピーク時の九六年を基準（一〇〇）として、「日本人全体の海外渡航者」「二〇代の渡航者」と「二〇代の人口」の三つの推移をグラフにしたのが、右図である。



これによると少子化による人口減少率よりも、かなり早いペースで、二〇代の海外渡航者数が減少してきた状況が見えてくる。若者の海外旅行離れは、事実のようだ。

だがもう一つ、このグラフから見えてくることがある。それは「最近の若者」だけでなく、海外旅行の現状にも、「若者の海外旅行離れ」を進行させる要因があるのだ。

「地球の歩き方」創刊 30 周年を機に、同書の創刊メンバー 4 人に対する 100 時間あまりのインタビューをまとめた『「地球の歩き方」の歩き方』（新潮社、2009 年、共著）と、本年 7 月 10 日発刊予定の『海外旅行の社会学（仮題）』（ちくま新書、2010 年）の著者が、戦後日本の海外旅行をめぐる通時分析から得られた知見を概説し、いま、日本の海外旅行の何が問題なのかを明らかにする。

【プロフィール】

1973 年生まれ。関西大学社会学部准教授。専門はメディア研究、歴史社会学。東京大学大学院人文社会学系研究科博士課程修了。博士（社会情報学）。著書は『英語講座の誕生』（講談社選書メチエ、2001 年）、『グアムと日本人』（岩波新書、2007 年）など。メディアとしての観光ガイドブックが持つ社会的機能に注目し、ゼミ生と「千里ニュータウンの社会学的ガイドブック」を制作した（2008 年）。本年は、英・韓・中・台・西の日本編ガイドブックを分析し、いかなる「日本」および「関西」が体験されているのか（テーマ：世界が旅する KANSAI）について、20 名のゼミ生とフィールドワークを重ねて分析している。